

算を策定したいと述べた。一 会内で会談し確認した。マ 院選公約で一律支給を掲 石井氏は「持ち帰って検討

岐阜薬大と名大研究センターが協定

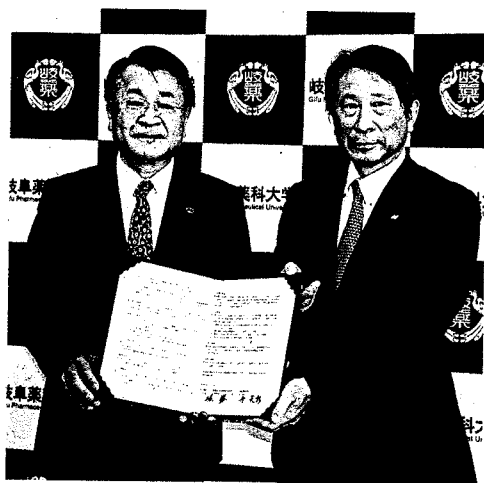
岐阜薬科大は9日、名古屋大 低温プラズマ科学研究センター と、プラズマ技術を利用した創薬や人材交流に関する連携協力協定を結んだ。電子やイオンなどの集合体であるプラズマは、がん細胞に照射すると死滅する効果が確認されているが、プラズマの薬は国内外にない。両者が協力して研究を進め、世界初のプラズマ技術を用いた新薬の開発を目指す。

プラズマは抗がん剤として利用することが可能となっているが、抗がん活性を示すメカニズムは不明な点が多い。協定では薬学的な観点から、抗がん活性を解明するとした。また、プラズマのエネルギーを抑え、医薬品として有機合成する方法を探り、薬を体内の目的の場所まで効率よく届けるシステム「ドラッグデリバリー」への応用に向けた研究も推進する。

岐阜薬科大はプラズマと薬学を結びつけた研究の草分け的存在で、1980年代から複数の研究者がプラズマや薬学、医療に関する研究を進めてきた。名古屋大低温プラズマ科学研究センターは、物質科学やバイオシステム科学など4部門で、約90人が研究に取り組む。国内29カ所の共同研究機関と世界20カ所のプラズマ研究機関と学術研究提携している。薬学系の研究機関と協定を結ぶのは、岐阜薬科大が初めて。

プラズマで新薬目指す

抗がん活性の仕組み解明へ



協定書に署名した原英彰学長(左)と堀勝センター長=9日午後、岐阜市大学西、岐阜薬科大本部キャンパス

岐阜市大学西の岐阜薬科大本部キャンパスで締結式が行われた。原英彰学長は「プラズマ研究は本学にもベースはあり、あらゆる分野で連携し業績を残したい」と述べ、堀勝センター長は「創薬の起源を持つ美濃の地で、世界をリードする研究を担いたい」と力を込めた。

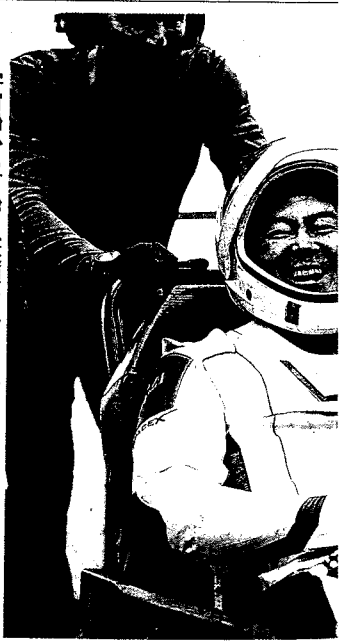
(稲葉亮)

新型コロナ再拡大阻止

旅行など都道府県をまたぐ移動の際も 体調管理など感染防止対策の徹底を



GIFU 岐阜県広報



宇宙船から下船し笑顔を見せる星出彰彦飛行士(右)、米フロリダ州沖のメキシコ湾(NASA提供)

午後10時 日午後0時 余り滞在 ーション 球に無事帰 た米スペー ルードラッ シコ湾に着 回収船に 宇宙船の昇

点滴3人中毒死 無期懲

元看護師「更生の可能性



久保木愛司被告

横浜市の旧大口病院(現横浜はじめ病院・休診中)で2016年、入院患者3人の点滴に消毒液を入れて中毒死させたとして、殺人罪などに問われた元看護師久保木愛司被告(34)の裁判員裁判で横浜地裁は9日、「更生の可能性が認められる」として無期懲役の判決を言い渡した。求刑は死刑だった。【関連記事27面、判決要旨25面に】

家令和典裁判長は判決理由で、被告は自閉スペクトラム症の特性があり、事件当時はうつ状態だったが「自分の行為が違法なものであると認識しつつ、犯行に及んでいる」として、完全責任能力を認めた。

その上で「看護師の知見と立場を利用し、計画性も認められ悪質」と断じた。患者の家族に対応しなくていいようにとの動機も「身勝手極まりない」と非難した。一方で、自閉スペクトラム症の特性から人付き合いが苦手で、看護師の資質に恵まれない被告が殺害を繰り返したはいかんと色濃く影響を及ぼした。

また、法的な内容も含めており「痛感し、最で償いたい」とやむを得ず「生涯をか向き合わせ更生の道を当だ」とし当と結論付け 言い渡し 告に苦し